

研究主題「学級活動における児童の合意形成を図る力の育成

ーガイダンスとカウンセリングの充実を通してー」

東京都教職員研修センター研修部授業力向上課

世田谷区立太子堂小学校 主任教諭 伊勢 祐美子

第1 研究のねらい

先行き不透明な予測困難な時代に生きる子供たちには、将来、職場や地域社会で多様な人々と協働しながら、目標達成に向けて実践する力が求められている。そのため、児童には、目標を達成するための課題を発見し、その課題解決に向けて話し合いながらチームとしての考えをまとめていくなどの合意形成を図る力が必要である。

小学校学習指導要領（平成29年3月告示）（以下、「学習指導要領」と表記。）には、「ア学級や学校における生活上の諸問題の解決 学級や学校における生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践すること。」と記されている。自分と異なる意見や少数意見も尊重し、安易に多数決で決定することなく、集団としての意見をまとめることの大切さを理解したり、合意形成を図っていくための手段や方法を身に付けたりできることが重要である。これらの過程を大切にしながら、最終的に「自分もよくてみんなもよい」という視点で合意形成を図ることができるように指導していく必要がある。

また、合意形成を図る指導を行う上で、学級や児童の実態に応じた指導、支援が重要である。学習指導要領には、「学校生活への適応や人間関係の形成などについては、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の児童の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリング（教育相談を含む。）の双方の趣旨を踏まえて指導を行うこと。」と記されている。本研究では、ガイダンスは、学級全体に合意形成の方法などを指導すること、カウンセリングは、合意形成に関する児童の発言及び記述内容などに応じて、教師が個別に児童を支援、指導することと捉えた。以上のことから、学級の実態に応じて学級全体に行うガイダンスと、一人一人の課題に応じて行うカウンセリングを相互に関連付けて、計画的に実施することで、児童の合意形成を図る力を育成することを本研究のねらいとした。

第2 研究仮説

学級活動において、ガイダンスとカウンセリングを相互に関連付けて計画的に実施すれば、児童の合意形成を図る力を育成できるだろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

「『合意形成を図る』とは、互いの意見の違いを超えたり、よさを生かしたりしながら最終的に“自分もよくてみんなもよい”というように集団として意見をまとめること。」（「学級・学校文化を創る特別活動」文部科学省 国立教育政策研究所（平成28年））と示されている。このことから、合意形成を図るまでの過程が重要であると考え、今までの学級活動の実践を基にして、その過程を段階的に8点に整理した。（表1）

表1 合意形成を図るまでの過程

	合意形成を図るまでの過程
①	学級目標やめあてを意識して話し合いに参加する。
②	分かりやすく自分の意見を伝える。
③	友達の思いを受け止めながら意見を聞く。
④	友達の意見を聞くとき、その人の立場になって考える。
⑤	意見の似ているところや違うところを考える。
⑥	分からないことを質問する。
⑦	提案理由などを根拠に考える。
⑧	学級としての考えをまとめる。

2 調査研究

(1) 調査の概要

令和3年7月から8月に、都内公立小学校1校の第4学年から第6学年までの児童108名及び都内公立小学校13校の学級担任の経験がある教員181名を対象に、学級活動(1)における合意形成を図ること及びガイダンス、カウンセリングの指導に関する意識調査を行った。

(2) 調査結果

ア 教員

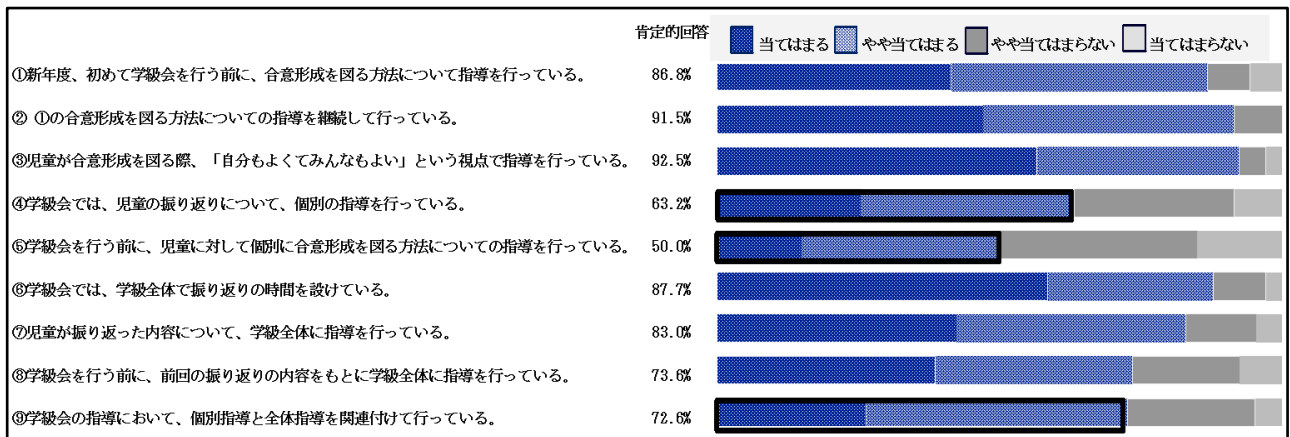


図1 教員対象の意識調査の結果

教員対象の意識調査(図1)では、「⑤学級会を行う前に、児童に対して個別に合意形成を図る方法についての指導を行っている。」という質問に肯定的に回答した教員は、50.0%と最も低い結果であり、「④学級会では、児童の振り返りについて、個別の指導を行っている。」という質問に対しても、63.2%にとどまり、個別の指導に関する課題が見られた。しかしながら、「⑨学級会の指導において、個別指導と全体指導を関連付けて行っている。」という質問に対する肯定的な回答は、72.6%と想定よりも多くの教員が肯定的な回答をした。次に、記述式による意識調査から教員が課題と感じていることの詳細を分析し、表2にまとめた。

表2 合意形成を図る力を育成する上で難しいと感じること

- | | |
|-------------------|------------------|
| ・話し合いが行き詰まってしまうこと | ・友達の意見を認めること |
| ・意見を比べ合うこと | ・多数決で決定しがちなこと |
| ・友達の意見を受け入れること | ・決定するために経験を重ねること |

イ 児童

学級活動(1)における合意形成を図るまでの過程について、児童対象の意識調査を行った。「①学級目標やめあてを意識して話し合いに参加する。」「⑥分からないことを質問する。」「⑦提案理由などを根拠に考える。」という質問に対する肯定的回答が他の質問と比較して低く、手だてを講じる必要があることが分かった。(表3)

表3 合意形成を図るまでの過程の調査結果

	合意形成を図るまでの過程	肯定的回答
①	学級目標やめあてを意識して話し合いに参加する。	55.2%
②	分かりやすく自分の意見を伝える。	72.8%
③	友達の思いを受け止めながら意見を聞く。	92.2%
④	友達の意見を聞くとき、その人の立場になって考える。	77.8%
⑤	意見の似ているところや違うところを考える。	78.9%
⑥	分からないことを質問する。	53.5%
⑦	提案理由などを根拠に考える。	61.8%
⑧	学級としての考えをまとめる。	85.6%

3 開発研究

(1) 合意形成を図るまでの過程における「ガイダンスとカウンセリングの一覧表」の作成

調査研究の分析を踏まえ、ガイダンスとカウンセリングを関連付けて計画的に実施し、合意形成を図る力を育成するための手だてとして以下の一覧表を作成した。(表4)

表4 合意形成を図るまでの過程における「ガイダンスとカウンセリングの一覧表」(一部抜粋)

合意形成を図るまでの過程	ア ガイダンス (全体指導)	イ カウンセリング (個別指導)
①学級目標やめあてを意識して話し合いに参加する。	①学級目標やめあてについて、目指す姿やゴールのイメージなどを共有できるように指導する。	①学級目標やめあてをキーワード化し、一人1台端末や掲示物などで児童に提示し、学級会の前に支援する。
②分かりやすく自分の意見を伝える。	②学級会の話型を示し、学級会の前に提案理由などを踏まえて、自分の考えを理由と共にまとめるように促す。	②一人1台端末、図、イラスト、付箋などを活用し、発言以外の別の方法も選択できるように支援する。
③友達の思いを受け止めながら意見を聞く。	③友達の意見を否定しない。 意見の聞き方を共有する。 (視線・表情・相づち・態度等)	③友達の「意見のよさ」を見付けるように、キーワードに注意して、聞くように支援する。
④友達の意見を聞くと、その人の立場になって考える。	④学級会の前に、それぞれの意見の提案者の立場で考える時間を設ける。	④一人1台端末や掲示板などを活用して、自分以外の意見について共有し、考えるように支援する。
⑤意見の似ているところや違うところを考える。	⑤意見が似ているところや違うところを自分の意見に取り入れてみるように促す。	⑤一人1台端末や掲示板などを活用して、様々な意見を分類・整理して考えるように支援する。
⑥分からないことを質問する。	⑥意見を比べ合う前に、「質問する時間」を設ける。	⑥付箋や一人1台端末などを活用して発言を促すように支援する。
⑦提案理由などを根拠に考える。	⑦提案理由を「現状の課題」「解決方法」「課題解決後のイメージ」の3段階に分けて作成するように指導し、共通理解を図るようにする。 提案理由の「課題解決後のイメージ」を基にして、考えられるように指導する。	⑦提案理由をキーワード化し、具体例を一人1台端末や掲示物などで児童に提示し、学級会の前に支援する。
⑧学級としての考えをまとめる。	⑧「自分もよくてみんなもよい」という視点で、考えるように促す。	⑧学級としての考えのまとめ方を提示し、話し合いの見通しをもてるように支援する。

4 検証授業及び検証授業の分析

(1) 検証授業の概要

都内公立小学校第4学年及び第5学年において、学級活動(1)の授業を実施した。(表5)

表5 検証授業の概要

学年・学級	内容	日付	議題	本時のねらい
第4学年 2組	学級活動(1)	11/12	「みんなと仲良くなれる教室の遊びを考えよう。」	みんなとさらに仲良くなれる遊びをするために、教室で行う遊びの内容を考えることができるようにする。
		11/19	「みんなが楽しめるお楽しみ会をしよう。」	学級の全員が楽しめる「お楽しみ会」にするための内容や方法等を考えることができるようにする。
		11/24	「思い出に残るお祭りをしよう。」	思い出に残る「お祭り」にするために、内容や方法等を考えることができるようにする。
第5学年 2組	ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決	11/12	「みんなとの仲がさらに深まる教室の遊びを考えよう。」	みんなとの仲がさらに深まるために、教室で行う遊びの内容を考えることができるようにする。
		11/19	「移動教室の思い出に残る学年レクリエーションを考えよう。」	思い出に残るレクリエーションの内容や方法等を考えることができるようにする。
		11/24	「みんなが楽しめるスポーツ大会をしよう。」	学級全員が楽しめる「スポーツ大会」にするために、集会の内容や方法等を考えることができるようにする。

(2) 検証授業の分析

ガイダンスとカウンセリングの充実を通して、児童の合意形成を図る力を育成することができたか検証するために、以下の方法で分析を行った。

ア 検証授業実施前後の児童対象意識調査の結果からの分析

表 6 合意形成を図るまでの過程の調査結果(検証前後) ※数値は、第4学年2組及び第5学年2組のみ。

	合意形成を図るまでの過程	肯定的回答 (検証前)		肯定的回答 (検証後)	増加
①	学級目標やめあてを意識して話し合いに参加する。	80.0%		91.0%	11.0ポイント
②	分かりやすく自分の意見を伝える。	78.5%	➡	86.5%	8.0ポイント
③	友達の思いを受け止めながら意見を聞く。	90.8%		100.0%	9.2ポイント
④	友達の意見を聞くとき、その人の立場になって考える。	80.0%		88.8%	8.8ポイント
⑤	意見の似ているところや違うところを考える。	84.6%		86.5%	1.9ポイント
⑥	分からないことを質問する。	55.4%		58.9%	3.5ポイント
⑦	提案理由などを根拠に考える。	55.3%		68.0%	12.7ポイント
⑧	学級としての考えをまとめる。	87.7%		92.8%	5.1ポイント

検証授業実施前後の児童対象意識調査の結果(表6)は、肯定的な回答をした児童の割合が、手だてを講じる必要がある質問①、⑥、⑦の3点を含め、全ての項目において増加した。ガイダンスとカウンセリングを相互に関連付けて計画的に実施した結果だと考えられる。

イ 検証授業中の児童の活動の様子と関連する手だてからの分析

表 7 検証授業中の児童の発言や記述に関連する手だて

学年 学級	概ね満足 できる 活動の状況	児童の活動の様子(分析の方法) ※下線は本研究の手だてと関連する内容	手だて	
			ガイダンス (全体指導)	カウンセリング (個別指導)
第4学年 2組	86.4%	「〇〇さんと●●さんの意見のよいところを合わせると遊びがもっと楽しくなると思います。」(発言)	アー⑤	イー⑤
		「質問の仕方や意見の付け足し方、意見の言い方が細かく書いてある紙を見ながら、発言することができました。」(学級会ノート)	アー②	イー②
		「自分の意見を発表した後に、今度は学級にとって何が一番ふさわしいのか考えて発表した。」(学級会ノート)	アー① アー⑧	イー① イー⑧
第5学年 2組	86.2%	「意見を言った時、友達が「いいね」と言ってくれました。これからは、たくさん意見を言おうと思いました。」(発言)	アー③ アー④	イー③ イー④
		「〇〇について分からないので教えてください。」(発言) 「〇〇について、タブレットを使って説明します。」(一人1台端末)	アー⑥	イー⑥
		「提案理由の「みんなが活躍できる」という視点で、学級の意見をまとめることができて良かったです。」(学級会ノート)	アー⑦ アー⑧	イー⑦ イー⑧

学級会の振り返りの際、「友達の意見を否定しない雰囲気になったため、質問や発言がしやすくなりました。」「みんなにとって、何が一番ふさわしいかを考える時に、自分のやりたいことではなく、提案理由を参考にして考えました。」などの発言が見られ、合意形成を図るまでの過程におけるガイダンス、カウンセリングの手だてが有効であることが分かった。(表7)

第4 研究の成果

カウンセリングを充実させるために一人1台端末などを活用したことで、普段発言できない児童が、自分の考えを発言することができるようになった。また、「ガイダンスとカウンセリングの一覧表」を活用して、ガイダンスとカウンセリングを相互に関連付けて計画的に実施することで、児童の合意形成を図る力を育成できた。

第5 今後の課題

学級活動における合意形成を図る過程で、児童が分からないことを質問したり、質問に答えたりする力をどのように育成していくか、考えていく必要がある。また、特別活動だけではなく、他教科等の学習においても、教員が意識して指導していくことが必要である。